

往復書簡

今回は、前島昭博氏（山口県）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡2回目です。

拝啓 高木 勇樹様

秋も一段と深まり、農場ではハウス暖房機がゴウゴウと音を立てて動いております。円安による原油高が進むなか、より暖房・生産効率を上げて困難を乗り越えようと日々、奮闘しております。現場にはまだまだ効率化できるところがたくさん残っているのです。

ご返信ありがとうございます。私のまだまだ未熟な考えを包容力ある言葉で受け止めて下さり、うれしく感じしております。

「最近の若者は・・・」などと言われるのが世の常ではありますが、私はまんざらでもないと思います。使命感を持った若者も多く、弊社にもインターンシップ制度を活用して「農業」に興味を持った若者が研修に訪れます。その多くは「日本農業の現状」に対して自分に何ができるのかを探求しようと悩んでいます。その内訳は農学部学生だけではありません。

一方では農業生産の現場も、他産業に比べると遅ればせながらではありますが、様々な方向でハイテク化が進んでおります。現場でそれを使いこなすのは、もはやその分野で専門教育を受けた人材がいないと無理ではないかなと感じることもしばしばです。経営が大規模化・組織化すればなおさらです。業者や試験研究機関に丸投げするのではなく、農業経営者やそのスタッフ（当事者側）が生産技術や機械、設備、ソフトウェア、労務管理等を理解して経営として組み立てていかないと発展はないと考えています。

両者のマッチングを考えるにおいて、紋切型の価値観を基準にした教育ではない。例えば「日本農業の現状と将来について」を様々な側面から学生たちに議論させるような機会を増やすことは「専門教育の現場」においても必要な

ことではないかと考えます。いわば思想訓練です。専門技能を持ったうえで、より成熟した使命感を持つ学生を社会に送り出すことができます。

もちろん受け入れる会社側も人材採用について重視する必要があります。初任給や労働条件の改善も必要なことです。それだけで職業を選ぶ時代ではない。若者の多様性を理解し採用戦略を立て、業務の中で彼らの能力を引き出し、経営に取り込み次世代としていく。そこに農業継承の場ができると考えています。花の海においても引き継いでいきたい。私の使命だと感じています。

平成二十六年十一月吉日

敬具

前島 昭博（まえじま あきひろ）

一九七〇年 愛媛県温泉郡重信町（現 東温市）生まれ
一九九五年 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程中退
一九九六年 山口県阿東町（現 山口市阿東）にある船方農場グループ入社
二〇〇一年 専農塾にて大規模園芸農場構想発表
二〇〇三年 株式会社 花の海設立、取締役として参加
二〇一三年 株式会社 花の海 代表取締役社長就任、現在に至る
当社は大規模システム園芸農場における苗づくりを通して、川上から農業を支える「O₁次産業」「農・商連携」。そして、農業の魅力・可能性をたくさんの人へ！をモットーに、川下から農業を支える「第六次産業」「都市・農村交流」の仕組みづくりを目指しています。



上段：(株)花の海 前島社長

下段：ハウス保守・修繕の様子

拜復 前島 昭博 様

各地で早くも大雪被害のニュースが流れ、自然の力に改めて畏怖の念を抱くのは小生だけではないでしょう。気象庁も暖冬予想を変えるようですね。52億キロ先の小惑星の探查機はやぶさ2号の打上げに成功するほど科学技術が進歩しても、天上の空気の動きは複雑な要因が絡み、なかなか予測が困難ということでしょうか。

小生は、わが国農業の強みのひとつはわが国の他産業・異業種の技術・知識・経験を応用・活用出来ること、そしてこれを可能にするマインドを持った農業（経営）者が存在することだと思っています。

また農業は、農地、人、技術、管理・企画力、販売力などの経営資源を自然の力を借り創意・工夫、努力により総合的に使いこなし、産業として持続する経営を行う総合知識集約産業だと主張しています。

農政の最大の使命・役割は、このような農業の担い手である持続的農業経営体が創意・工夫、努力し易いよう、環境整備を行うことと経営体の個別の力を超える自然等の影響に対する経営を単位とする収入保険などのセーフティネットの構築と考えています。

貴兄の指摘されていることは、小生が描いている農業経営の姿を実現する課題そのもの、むしろすべてのことと言ってよく、経営者の姿勢として、誠に正鵠を得たものと感じ入った次第です。

特に農業関係の大学教育においてより成熟した使命感を持つ学生を世に送り出すための提言は、地方創生の具体案として傾聴に値するものと受けとめました。

終わりに、「一花の海」の経営戦略の一環としての人材採用の考え方には全く同感です。

是非この手紙で指摘されたことを実践し、わが国はもとより世界をリードする経営モデルに仕上げて下さい。期待しています。

良い年末年始をお過ごし下さい。

敬具

平成二十六年十二月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒業後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

